プレスリリース「国連大学：ボトル飲料水に関する新報告書」添付資料

2023 年 3 月 16 日
国連大学

要約

本報告書ではボトル入り飲料水に関する全世界の事実と認識を考察し、世界のボトル入り飲料水市場の地理、構造、傾向、成長理由を分析する。検討対象は、ボトル入り飲料水の品質に関する現在の知識、水資源に及ぼす影響、およびプラスチック汚染に果たす役割である。また、誰もが安全な飲料水を入手できるようにするという持続可能な開発目標（SDGs）へのボトル入り飲料水産業の影響という問題も提起する。本稿の分析対象は、自治体が供給する通常の水道水と風味がほとんど、またはまったく変わらない種類のボトル入り飲料水に限られる。

価格が水道水より数桁高い場合があるにもかかわらず、ボトル入り飲料水はグローバル・ノースとグローバル・サウスの両方で幅広く消費されていることが示されている。現在、全世界のボトル入り飲料水の販売額は2,700億米ドル、販売量は3,500億リットルに近いと推計される。本報告書では、ボトル入り飲料水の国内総販売額、総販売量と一人当たりの販売額と販売量の世界上位50カ国を地図上で示し、ランクを付けた。アジア太平洋地域は世界のボトル入り飲料水市場の約半分を占め、グローバル・サウス諸国の総計は約60%である。米国、中国、インドネシアを合わせると世界市場の半分になる。ドイツはヨーロッパで、メキシコは中南米諸国で、南アフリカはアフリカでそれぞれ最大の市場である。シンガポールとオーストラリアは、ボトル入り飲料水の一人当たり年間収益と販売量の両方で突出して一位の座を占め、米国と中国では、一人当たりの売上高や消費量などの指標はシンガポールとオーストラリアよりはるかに小さい。

本報告書によれば、ボトル入り飲料水市場の成長理由はグローバル・ノースとグローバル・サウスで大きく異なる。前者ではボトル入り飲料水は水道水よりも健康的で風味の良い製品として認識されることが多く、必需品というより贅沢品である。グローバル・サウスでは、ボトル入り飲料水の販売は、主に信頼のおける公共水道が不十分、またはないことによって促進されている。

世界の全地域で、40カ国以上の約60件の事例研究に基づいて、本報告書ではあらゆる種類のボトル入り飲料水の数百銘柄で無機、有機、および微生物汚染が数多く発生したこと、そしてそれらの汚染はしばしば現地基準や世界基準を上回っていたことを明らかにした。これは、「ボトル入り飲料水は疑いなく安全な飲料水源である」という誤った認識に対する強力な反証であり、また、いかなる国においても、一つの水源（公共水道）の代わりに別の水源（ペットボトル入り飲料水）を選んだからといって、安全で信頼のおける飲料水を供給できるとは限らないことを本報告書は訴える。

ボトル入り飲料水を生産するために取水すると、ボトル入り飲料水調達地域の地下水資源が枯渇する可能性があるが、それを示す事例研究は稀である。そのような取水は、世界的に見て絶対量が少なく、灌漑農業のようなより大量の水消費産業と比べると少ないかもしれないが、局地的には水資源に大きな影響を及ぼす可能性がある。ボトル入り飲料水産業の取水量に関して入手可能なデータが不足している主な原因は、透明性がないことと、生産者に取水量を公開させ、その活動が環境に

与える影響を査定させる法的根拠がないことである。安全に飲める水道水を必ずしも入手できないグローバル・サウスは、将来的な潜在力のあるボトル入り飲料水市場である。国家的な水管理政策がないため、ボトル入り飲料水を調達するための地下水の取水が規制を受けないまま進められ、長期的に持続可能な飲料水供給にほとんど、またはまったく貢献しないことがあり得る。

本報告書では、ボトル入り飲料水に関連するプラスチック汚染に関し、散在していた情報を集約して、現在、世界で約6,000億個のプラスチックボトルが生産され、約2,500万トンのプラスチックごみになってリサイクルされずに埋め立てられるか、または不法投棄により処分されていることを指摘する。プラスチックが環境にもたらす悪影響についての社会意識が高まる兆候が見られるものの、プラスチックが環境に与える負荷を根本的に軽減する画期的な解決策はいまだに存在しないようである。したがって、プラスチック汚染は今後も続くと考えられる。

誰もが安全な飲料水を入手できるようにするための進歩が著しく停滞しており、ボトル入り飲料水市場が拡大してこの進歩が減速し、注目と資源が公共水道システムの開発の加速に向けられていないことを、本報告書は示している。世界中のボトル入り飲料水の年間売上の半分未満の金額を利用すれば、清潔な水道水を飲用できていない数億の人々に、長期にわたって安全な水を供給できると推測されている。近年、水関連の目標を含む SDGs への資金供給の拡大を狙ったハイレベルのイニシアチブが打ち出されている。このようなイニシアチブは、ボトル入り飲料水部門がこの取り組みに積極的に参加し、持続可能な水の供給を、とりわけグローバル・サウスで加速する一助とする機会である。

（以上）